蔵 DE Books
としょだより

ほんとしおり

Vol.4
2017年1月発行

子供のときに見た景色

蔵の本棚にある、青い表紙に不思議な動物の絵。古代の壁画か、象形文字か。何か神秘的なメッセージがある気がして本を開くと、目の前にアラスカの雄大な自然。北へはるか五千キロ。なんとも高性能などこでもドアだったというわけです。その本は星野道夫の『旅をする木』。アラスカの原始の自然と、そこで生きる動物や先住民から学んだことが著者の真摯で優しい眼差しで描かれています。

作中にある日本の子供達とオーロラを見る場面。今を生きることだけに精一杯な子供達がオーロラに圧倒されているのを見て、著者はこう思うのでした。今見た景色は日常に戻れば忘れるかもしれないが、何年か後にふと思い出して励ましてくれる。子供の頃に見た景色とはそういうものだ、と。そういえば私にもと、懐かしい光景が浮かびました。

学校の横の川原。ススキが揺れるのを眺めながらの帰り道。祖父に背負われ近くの山へツララ取り。半纏越しに伝わる背中の温もり。近所の田んぼ道で、ザリガニを探していたら、いつの間にかトンネルを越えて心細くなったこと。

そこには守られている感覚がありました。安心して大きくなっていいんだよと言ってくれているような。その感覚があったから今の自分があって、これからも私を深いところで支えてくれる。今では滅多に通らないあの道を、久しぶりに歩いてみようか。前を向いて。力強く。

蔵 DE Books オープン１周年記念 振返りすごろく

祝

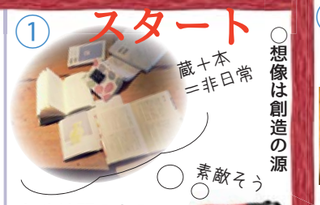
蔵 DE Books は２０１６年10月で無事一周年を迎えました。準備を含めると一年半。当初は楽観的なイメージしかなかったのですが、実際やってみると思うようにならないことばかり。

それでも、「いいところですね。」「頑張ってください」など、温かい言葉を頂く度に、やってよかったと心から思うのでした。

先を急ぐより、一歩一歩を大切にしながら確実に前に進もう。そう思えた日々。

というわけで、お正月にちなんで、この一年半をすごろく風に振り返ってみました。サイコロが転がる先には、どんな景色が待っているのでしょうか……。

① スタート



○想像は創造の源

初めは頭の中のイメージに過ぎなかった。

② 2015 年春

○思い立ったが吉日

思い切って企画書を作成。みんなも賛成。あっという間にやることが決定。

③ 2015 年夏

○東方西走

矢板市立図書館へ相談、まちライブラリーに登録、運営マニュアルや規約の作成など、慌ただしく準備。

④ 2015 年８月 読書会

○一期一会。

お試し企画。テーマは「旅」。蔵で、本を通した人との出会い。確かな手応え。

⑤ 2015 年９月 蔵 DE Night!!

○秋の夜長

蔵 DE Books オープン間近。PR の為、キャンドルと一緒に本を並べる。本が幻想的に見える。

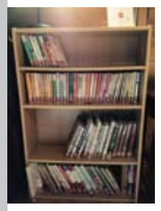
⑥ 2015 年 10 月 蔵 DE Books オープン！

○万を持して

みんなで力を合わせてなんとか形に出来た。

とりあえずホッ。

⑦ 2015 年 10 月～



○感謝感激

寄贈本ぞくぞく集まる。ご厚意に感謝。

⑧ 2016 年２月 植本祭

○桃栗三年

みんなで本を持ち寄って、本棚を育てよう。テーマは「動物」、「旅」、「歴史」。

⑨ 2016 年３月 ほんとしおり Vol.1 発行

○お粗末さま

発行部数は５０冊。超レア号。

⑩ 2016 年３月下旬 シダレ桜満開！

○春爛漫

花見客にオススメの本を書いてもらう。本の花も満開。

⑪ 2016 年５月 出張 蔵 DE BOOKS in 長峰公園

○若葉が目にしみる

天気に恵まれ、人も多いけど、誰も来ない。怪しまれてる？

⑫ 一回休み

○宝の持ち腐れ

オープンから半年。思ったより利用者が少ない。しかし、落ち込んでいる暇があったら面白いことを考えよう。

⑬ 2016 年６月 ほんとしおり Vol.2 発行

○２回目からが勝負

英語の本に奈良の旅。写真が素敵な Vol.2。

⑭ 2016 年６月 ビブリオバトル

○雌雄を決す

誰の本が一番読んでみたいかを決める知的書評合戦。本の新しい楽しみ方を知る。

⑮ 2016 年９月 ほんとしおり Vol.3 発行

○誠心誠意

天狗党が矢板に襲来！幕末の動乱と悲劇の物語。

⑯ 2016 年９月 蔵 DE Night!!

○虎の威を借る狐

人気イベントでちゃっかり PR。（詳しくは４ページへ）

⑰ そして、この先も道は続く……

○初心忘れるべからず

まだまだ知名度がが低い蔵 DE Books ですが、これからも、まず自分達が楽しいと思えることをやる。そして、「なんか面白そう」といろんな人に興味を持ってもらえる場所になれればいいなあと考えています。

もくじ

3 蔵 DE Books オープン一周年記念　振り返りすごろく
4 蔵 DE Night!!2016 雨ニモマケズ開催！
6 本棚拝見。第四回　橋本 佳奈子さん
8 物語メシ！『女たちよ！』／伊丹十三著 より トマトソースパスタ二種と伊丹流サラダ
10 としょがかりの声②「物語を支える主人公の魅力　第三回」
11 オススメの本『霧が晴れたとき』としょがかりの声③「遠野における外国の話」
12 ご案内 蔵のイベント情報／利用案内／寄贈について

蔵 DE Books としょだより

ほんとしおり

子供のときに見た景色

Vol.4
2017 年
1 月号

７２分の１の、こんにちわ。

第三候【魚上氷】

2月13日～17日

うおこおりをいずる。

節気は立春。川や湖の氷が次第にぬかるんで、魚が元気に飛び出す季節。寒さは続くが、春が来まで生き物は、待ちきれないとばかりに躍動を始める。立春の旬の食べ物はあおやぎ、苺、ふきのとうなど。夜空にはおおいぬ座のシリウス。

日本の四季には 24 の節気と、72 の諸候があります。日々の小さな変化に耳をすますと、季節の足音がそっと聞こえてきます。

《参考書籍》「くらしのこよみ」
うつくしいくらしかた研究所／平凡社

春が来たら
さようなら。

～ほんとしおりについて～

2016 年秋にオープンした蔵 DE Books を、たくさんの人に親しみをもって利用してほしいという思いで作っています。

矢板武記念館の蔵を人と文化が交わる場所に再生することを目的とした蔵＊武 project。その中から有志数名が「としょがかり」として蔵 DE Books の管理、運営をしています。

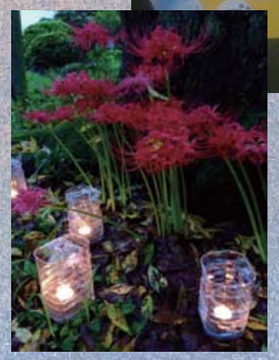
本好き、旅好き、テナー吹き、元バンドマン（キーボード担当）。ちょっと不思議なとしょがかりメンバーによる自由気ままな読み物や、本にまつわるあれこれ、そして蔵のイベント情報を楽しく元気にお届けいたします。

本にしおりをはさんだら、一息ついて次は何する？

蔵 DE Night!! 2016

雨ニモマケズ開催!!

当日、「道の駅やいた」で作ったキャンドルホルダーも点灯。



しだれ桜の木の下の彼岸花とキャンドルが網に濡れて幻想的。

矢板のピザ屋さん「ヴィア・ナポリ」さん特製のイタリアのお菓子。おいしい！と大好評。

西蔵ではマジックアワーの写真の展示や動画を上映。

日が暮れてキャンドルの光が深まる頃、西蔵のアトラクションもいよいよ開始！

矢板が誇る矢板ウインドオーケストラの素晴らしい演奏にうっとり。

蔵 DE Books の本と、としょがかりのおすすめ本も展示。

2016年のテーマ『マジックアワー』

※マジックアワーとは、夕暮れから日没後数十分間の、空の色が幻想的に変わりゆくひと時。

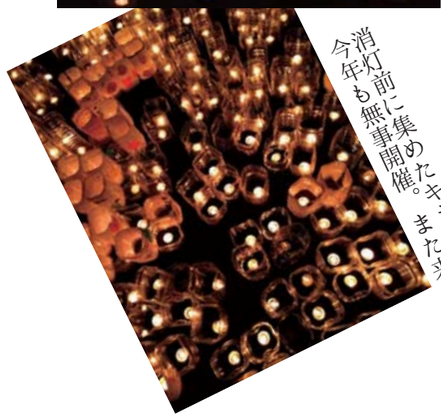
9月の終わり。

夏から秋へと季節が移り変わる中、蔵＊武Project最大のイベント「蔵DE Night !! in 矢板武記念館」が今年も開催されました。

このイベントは、私たち蔵＊武Projectが活動拠点としている矢板武記念館の蔵を使ったイベントです。今年も映画上映、庭でのキャンドル点灯、蔵でのカフェ、演奏会、絵本の読み聞かせ、昔話など見どころ盛りだくさんでした。

陽が沈み始めるころには心配していた雨もあがり、無事キャンドルに灯りを灯すことができました。

道の駅で作られたキャンドルホルダーも。優しい灯り。



消灯前に集めたキャンドル。今年も無事開催。また来年！

人の温かさを思わせる、暖かで穏やかな小さな灯に包まれるとどこか懐かしさを覚えます。

小さなイベントかもしれませんが、いろいろな人の手助けのもと実施出来た「蔵DE Night!!」。ご協力いただいた皆様、イベントにお越しいただいた皆様、本当にありがとうございました。

来年もまた、みんなで暖かな灯りを見られることを願って。

雨あがり。優しくも幻想的な灯りが記念館を包む。

本棚は、心を映す鏡なり。

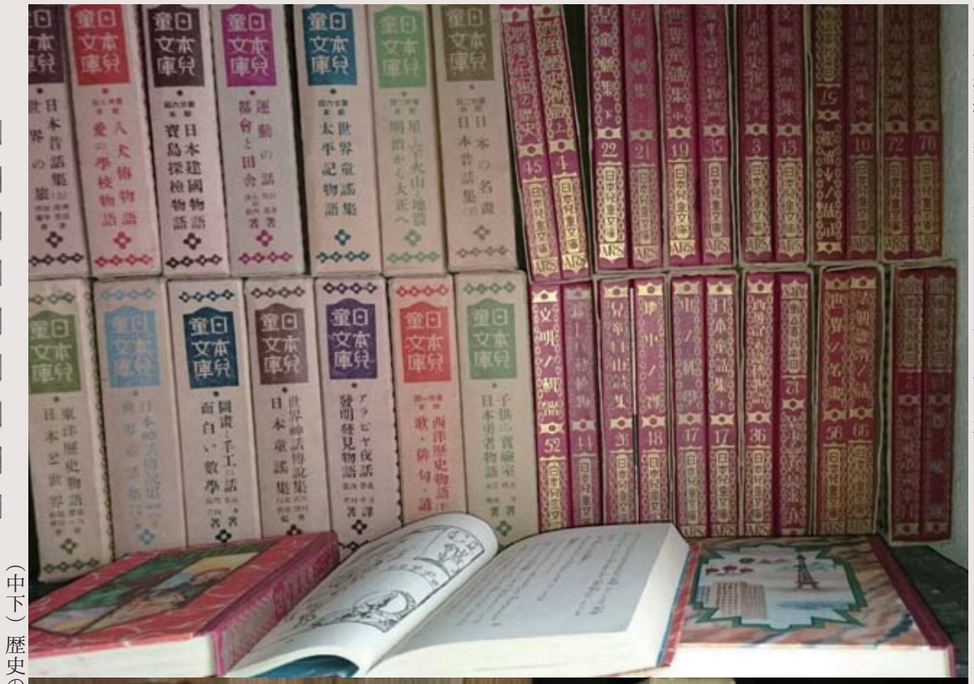
本棚拝見。

第四回 橋本佳奈子さん

今回の「本棚拝見」では、いつも蔵＊武Projectを支えてくださっている橋本佳奈子さんにお話を伺いました。

おじいさんの本

橋本さんのひいお祖父さんが大変な読書家だったそうで、250冊余りの書籍が橋本家の蔵に保管されています。明治生まれのひいお祖父さんは、体が弱く読書と子どもが好きだったとか。その影響か文学集や童話集が多く集められているそうです。蔵＊武Projectメンバーとしては、自宅に蔵があるお宅ってなんだか心がときめきます。



（中上）挿絵や装丁の美しいこと！昔の本は大切にしてもらえるための工夫がされていたのだなあとしみじみ。

（中下）歴史の教科書や国語の便覧にあったあの作品も！読んでみたい！

読書の楽しみ

蔵の中で保管しているためか、砂埃をかぶってしまい半年に一度は埃落としをしているそうです。手間がかかる分、愛着がわきそうですね。

歴史ある全集に興味がわき、初めて手に取ったのが15年前。以来今日まで旧字体に苦戦しながらコツコツ読み進めているそうです。本を見せてもらうと、表紙の題字が左右逆…。歴史を感じます。収蔵本の中には有名な本も多くあり、新しく現代語で出版された本もありますが、橋本さんは古いものが好きなのだとか。新しいものや電子データが溢れかえる昨今ですが、読書は「古いもの」の良さを見直すきっかけになりそう。紙の匂いと1ページ1ページめくりながら本を読むのは、実はとても贅沢な時間の使い方かもしれませんね。

橋本さんの自宅の蔵（右）。立派な蔵には古書がずらり（右）集めたひいお祖父さんも、それを残してきた蔵こともすごい！

好きな本

好きな作品として、橋本さんが紹介してくれたのが芥川龍之介『河童』。物語全体の陰気な中にユーモアもあって河童たちが可愛らしいとか。もう一冊は、石川啄木の『一握の砂』。後の妻となる女性との恋愛の歌。教員、北海道での流浪時代、生活苦、そして病…。切ないけれどとても美しい歌集。

橋本さんの特技は…

そんな橋本さんの特技は絵を描く事。蔵＊武Projectもいつもお世話になっています。読んだ本の気に入ったシーンを絵で描き、読破の証として残しているそうです。絵を見返す度に、本を読んだ際のトキメキが蘇りそう。絵を描くことが大好きな橋本さんならではの、本との楽しい付き合い方です。

橋本さんの読書人生はまだまだ続きます。

（左上下）石川啄木の『一握の砂』や、芥川龍之介の作品をイメージしたイラスト。読むだけでなく、描くことで作品の世界観がより深く広がりそう。

佳奈子さん、いつも温かく見守ってくれてありがとうございます！

物語メシ

ー良い物語には、美味しい食べ物が登場する。例を挙げると、ジブリ作品での様々な食べ物や、アルプスの少女ハイジのチーズ、ぐりとぐらのカステラなどが有名だ。こうした物語の中のごちそう（以後、「物語メシ」と呼ぶこととする。）は、作品に深みを与える舞台装置にもなっているー

色鮮やかなメニュー。コーヒーと一緒に。

このコーナーでは、「物語メシ」を蔵DE BOOKSのメンバーが実際に調理、実食し、レシピや食べた感想、物語にまつわるあれこれなどを綴っていくこととする。

記念すべき第一回では、伊丹十三さんの著作『女たちよ！』に登場するトマトソーススパゲッティとボンゴレロッソを作る。さらに、付け合わせに伊丹流のサラダも作ることにした。

『女たちよ！』／伊丹十三 著　新潮出版

基本のスパゲッティ

まずはトマトソーススパゲッティのソースを作る。ちなみに同時進行で麺も茹でる。伊丹さんは『女たちよ！』で、麺の芯が少し残るぐらいに茹でる、いわゆる「アル・デンテ」という状態が理想だとしている。「アル・デンテ」は「歯に」という意味で、パスタを噛み切ると、まだかすかな抵抗を感じられるくらいの状態に

普段買わない食材が多いのも伊丹流？

シングを作った。具材はレタス、千切りキャベツ、ツナ、オリーブ、カイワレ大根、ミニトマト、茹で卵を使用。これらの具材をサラダボウルでかき混ぜれば完成だ。

酢を使わなかったことが怪我の功名となったのか、爽やかなレモンの酸味が効いたドレッシングを作ることに成功した。個人的には、酢を使わないドレッシングもアリなのだということが分かり、大きな収穫だった。

実食、そして味のポイントは

調理が終わり、としょがかりメンバーでいざ実食。トマト、そしてアサリの旨味が効いた二種類のパスタはもちろん美味。そして、レモンの風味が爽やかなサラダは、濃厚なパスタとの相性が抜群だった。伊丹さんの『女たちよ！』を読んだ人はもちろん、読んだことがない人でも是非、調理して食べていただきたい。作る際のポイントは二点ある。一つはアル・デンテに茹でること。もう一つは、茹でたパスタはすぐ食卓へ運び食すこと。この二点が守られていれば、具材などが多少違っていても、美味しい伊丹流パスタになるのではないかと私は感じた。

レモンがいい仕事をしてくれる。

仕上げていく。また、麺を茹で上げたら間髪おかずに食卓へ運ぶのが重要だ、ということについても記述している。

話を戻そう。トマトソース作りの手順だが、まず、鍋でバターとオリーブオイルを1：1の量で熱し、ニンニクを加える。ニンニクがキツネ色になったら、玉ねぎとパセリ（今回は入手できずバジルで代用）、ベーコン、シメジを加え、さらに炒める。シメジに火が通ってきたら、潰したトマトを投入。あとは、塩と胡椒で味を調えれば完成である。

この時点ですでに美味しそう。

基本のスパゲッティをアレンジ

次にボンゴレロッソを作っていく。こちらは、先ほど作ったトマトソースにアサリを入れて煮るだけで、簡単に作ることができる。

アサリは、海水程度の食塩水で2、3時間つけて砂抜きをしておく。このアサリをトマトソースに加え、少し加熱すれば完成となる。

アサリのソース用に別鍋に移す。

サラダはボウルでかき混ぜる

最後は、伊丹流サラダ。まずはドレッシング作りだが、調理当日に、担当の手違いにより酢を忘れてきてしまったため、レモン汁、オリーブオイル、塩胡椒、砂糖、そしてマスタードでドレッ

としょがかりの声①

物語を支える主人公の魅力！～第二回～

文　小町

前回に引き続き、物語に登場するキャラクターの性質が、物語をどのように支えているか考えていきたい。今回はトリックスター的な魅力を持つ者として、『古事記』のヤマトタケルを取り上げる。

日本最古の書として有名な『古事記』は、天地創造から推古天皇に至る神々につながる天皇家の系譜と王権の由来をその起源から記した歴史書である。イザナギ、イザナミの国生みや因幡の白兎、アマテラスとスサノオの対決などの話は有名である。その中でも、有名なエピソードにヤマトタケルの物語がある。彼の登場する話は景行天皇に関する章であるが、専らの関心が天皇ではなくその息子ヤマトタケルに向けられ、古事記の中でも際立った恋と戦いの物語となっている。その中でヤマトタケルはまさしく「英雄」といった扱いを受けているし、古事記についてなんとなく知っているといった人もそうした認識を持っていると思われる。

けれども、彼の性格にはいわゆる見習うべき男性、理想の戦士といった主人公像とはかけ離れた面もある。普通であれば、そうした事実がもしあったとしても物語としての性質を優先するのであれば負の面は描かれないものである。いったいなぜそうした面が描かれているのか、いくつかの場面をみながら考えていきたい。

まずヤマトタケルがまだオウスという名前であった頃、兄を殺してしまったエピソードがある。景行天皇の婚約者をオウスの兄オオウスが横取りしてしまうという事件が起こる。気弱な天皇はこれを咎められずにおり、オウスは自分が兄を咎めてやろうと考えていた。そしてその機会は訪れる。天皇はオオウスが食事に現れないのをオウスに注意しに行かせる。けれどもその後も兄オオウスが食事に現れることはない。不審に思った天皇がオウスに尋ねると「兄が便所から出てくるのをまって、手足をもぎ取って殺してしまった。」と答える。鬼畜の所業である。いくら父の恨みを晴らすためとは言え、実の兄をこうも簡単に殺してしまうのは普通のことではないだろう。とても残虐な彼の性格が見て取れるように思う。『古事記』にはこうした記述が他にも残されている。

今回紹介したこと以外にも、興味深い点がいくつかあるので、次回も引き続き『古事記』とヤマトタケルについての考察を行っていくこととする。

おすすめ本

『霧が晴れた時』小松　左京 作 角川ホラー文庫 －恐怖自選作品集

※今回の本は蔵にありません。ご了承ください。

・SF の巨匠小松左京さんの短編集。
普段の近未来系 SF とはちょっと違った土着神話的な SF が中心になっています。

団地の不気味さ奇妙さを描いた「蟻の國」山の怪奇「すぐそこ」土着的な恐怖「黄色い泉」など多彩なホラー SF が収録されているこの短編集。個人的にベストに上げたい話は、「くだんのはは」という短編です。このお話、執筆当時の芦屋周辺で流れていたとある噂話を基に作られた小説でして今も形を変えつつその噂は芦屋周辺で流れているそうです。

自分はこの噂を先に知って、そこからこの話にたどり着きました。その噂の内容とは…まあ本編のネタバレになってしまうので言えませんが、とにかく不気味な話かつ興味深い話で「いったいなんでこんな話が広まっているのだろうか」など考えるのもまたこの小説の楽しみ方なのかなと思います。

どんな話が載っているか

霧の中でさまよう親子を描いた「霧が晴れた時」映像作品にもなった「影が重なるとき」現代都市伝説ともいえる「くだんのはは」団地の恐怖を描いた「蟻の國」現代妖怪忌憚「さとるの化物」などバラエティに富んだ短編が集められています。

としょがかりの声②

遠野物語と妖怪 ③「遠野における外国の話」

文　大納言

遠野物語が描かれた時代、それは明治の終わりごろでした。

当時はすでに外国の文化がどんどん日本に入っていた頃です。ですから遠野に伝わる伝承以外にも、近所の噂を集めた遠野物語の中には現在進行形で起こった事件なども収録されています。

例えば当時70代のおじいさんが若いころは外国人が遠野に多く住んでいたと証言している話があります。時代的には江戸の末期から明治初頭でしょうか。外国との交流が増えてきた時期でもあります。そのためか当時遠野には白人の血が混ざった子が住んでいたそうで、声も鋭く、肌の色も白かったそうです。

また外国といえば遠野で見える蜃気楼は遠い異国の風景を写すのだとか。しかも当時の日本とは大きく異なる都会で馬が道を行きかっているのだとか。

おそらくは当時はいってきた外国の情報を基にした噂話や見間違いなのでしょうが、文化が移り変わりいく日本の様子を覗くのも遠野物語の楽しみ方といえるでしょう。

○ ご案内

小さな蔵の映画祭

場所：矢板武記念館西蔵

開場：10:00

上映開始：10:10

上映作品

1/28(土)「東京物語」

（上映時間 138 分）

他にも楽しいイベント企画中。
蔵＊武 project の活動については
Facebook ページを是非ご覧ください。

本だけじゃない

蔵のイベント情報

企画中！詳細未定！

文学喫茶（仮）

日時：おそらく春の始めの土曜日
18 時～

場所：矢板武記念館東蔵

挽きたて珈琲を飲みながら、
日本文学の名作に耳を傾ける、
紳士淑女の朗読会

蔵 DE Books 利用案内

入館料１００円。
（蔵で飲み物の提供あり）

・貸出し可。（一人２冊。２週間まで）

※駐車場はありません。
市役所駐車場をご利用ください。

・利用時間（注）片付け時間を含む。

４月～１０月　９：４５～１５：３０
１１月～３月　１０：１５～１４：３０

休館日は月曜、火曜、祝日の翌日及び、
年末年始（１２月２７日～１月５日）

本の寄贈について

受付日：毎月最終土曜日

受付先：矢板武記念館受付

※スペース等の都合により、
本を本棚に並べられない
こともあります。

※公序良俗に反するもの、
宗教や思想色の強い本を
並べることは出来ません。

まちライブラリーに加入しています。

まちライブラリーとは、まちのあちこちに本棚を置き、本を通して人との縁を繋ぐ活動です。全国で展開しています。

寄贈の際は、メッセージカードに感想などを記入してください。

本に付いたメッセージカードが次々に本を読んだ人たちの想いを伝えていきます。

蔵 DE Books の全ての本にはまちライブラリーのシールを貼付。

本が好き、楽しい事が好きな方。

としょがかりメンバー募集！！

一緒に蔵 DE Books を盛り上げませんか？活動内容は蔵 DE Books の運営、本に関するイベントを行うなど。興味がありましたら、
p.kuratake@gmail.com までご連絡ください。

蔵＊武 project とは
矢板武記念館の蔵を人が集まる場所に再生することを目的に、矢板武塾卒生を中心とした２０～３０代の若者達が活動。
お問い合わせ：p.kuratake@gmail.com までメール